

移転後の図書館で、生徒と図書館をむすぶために

鹿児島県立国分高等学校 専門員 加治木潤子

1 学校の概要

創立 112 年目

23 クラス(普通科20クラス 理数科3クラス) 835 人在籍(R7.10.1現在)

SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)指定校(H30~, 現在Ⅱ期3年目)

令和5年3月新校舎完成、同年4月運用開始

2 学校図書館の概要

(1) 施設設備等

場所: 本館2階

面積: 約254m² / 60席

蔵書: 22,480 冊(R7.3 末現在)

新聞: 2紙(南日本・朝日)

雑誌: 7誌

(2) 全校読書活動(1, 2年生のみ)

朝読書(水曜日を除く平日)

実施時間は朝課外終了後の8:30~8:40

水曜日は『「社会」を読もう』(社説を読む)

ビブリオバトル(統一 LHR・年1回)

事前に予選会を行い、当日クラスのチャンプ本を決定

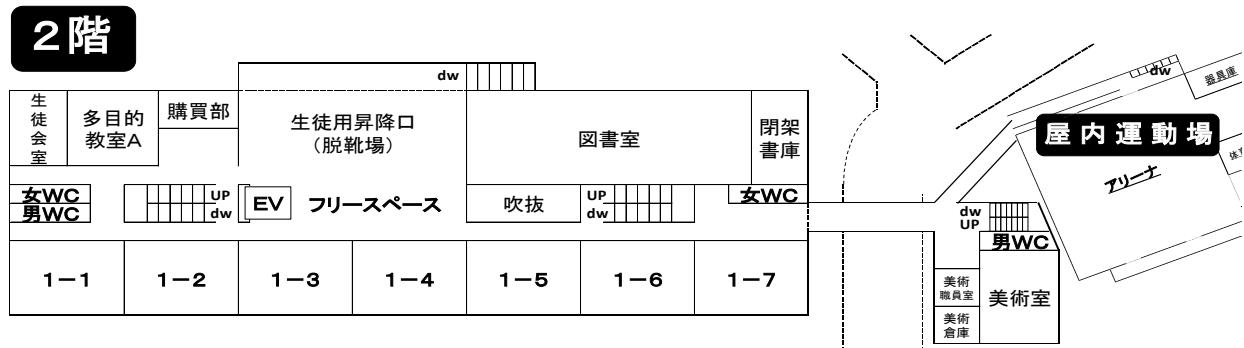


3 新図書館について

- 生徒用昇降口に隣接し、1年生教室の向かい側に位置する。
- 図書館の広さは約2.5教室分、出入口が前後2か所
- 同じ階には、生徒会室と購買部がある。
- 図書館の窓からは校庭が見渡せる。



図書館のある校舎2階配置図



4 新旧図書館利用の比較

(1) 旧図書館の利用状況

- 3年生の利用が多く、1, 2年生の利用は少なかった。
- 図書館のある場所は管理棟3階の端(3階建ての3階)で、棟は異なるが、渡り廊下でつながる3階に3年生の教室があった。
- 進路指導室、情報処理室が近くにあり、図書館に立ち寄る生徒もいた。
- 貸出返却、読書、自習、課題研究での利用がほとんどであった。

(2) 新図書館の利用状況

- ・1年生の利用が増加, 3年生の利用が減少(旧図書館とは逆転現象)
- ・帰りの交通機関の待ち時間の待機場所としての利用
- ・友人との待ち合わせ場所としての利用・教育相談や三者面談の順番待ちの場所としての利用
- ・夏休み中における部活動生の自習や読書の場所としての利用
- ・生徒の集まりの場として利用(中学生体験入学でのボランティア控室や部活動ミーティング等)
- ・別室登校等の生徒の居場所としての利用

(3) 課題と工夫

- ・カウンターから遠い出入口を利用する生徒が多く, 司書と生徒の接点が減少
→ カウンターから出入口が見えるようにする, 「本の相談に乗ります」の案内表示
- ・別室登校生徒への係わり方
→ 保健室との連携

5 生徒と図書館をむすぶ取組

(1) 課題研究のサポート

- ・自然科学分野を図書館中央に配置
- ・本校 SSH 特徴の一つ「霧島学」に対応できるような資料収集
- ・「サイエンスリサーチ」(週2時間)時のフロアワークとパスファインダーの作成

(2) 図書委員会活動

- ・朝読書開始のアナウンス
- ・地元書店に図書委員作成 POP の紹介コーナー設置

「地元書店×高校生 読書推進プロジェクト2025 高校生が選ぶ夏の1冊」を, 霧島市教育委員会主催(事務局:霧島市立国分図書館)で, 霧島市内4校と2つの書店が連携して行った。夏休み期間中に, 図書委員の推薦図書が書店の特設コーナーにて展示・販売された。



(3) その他

- ・本校の学校案内パンフレットや, 毎月中学校向けに配布される最新ニュースを掲示
- ・LHR での活用として, 人権に関するブックリストを作成, 文化祭の展示テーマ決めにクラスで図書館利用

6 今後の展望

- ・1年時の図書館利用を, 学年が上がってからも継続できるようにつなげていく。
- ・待機場所や集合場所など単なる場所としての利用だけでなく, 図書館の機能を生かした利用に結び付けていく。